

令和5年度 スクーリング概要 国際情報専攻

日程：令和5年4月29日（土；祝）～5月1日（月）

場所：東京 市ヶ谷 日本大学 通信教育部1号館

「国際情報論特講」（担当：加藤 孝治）

講義概要：国際情報専攻の必須科目としての「国際情報論特講」は、これから国際情報分野の研究を進めるために必要な研究リテラシーと国際情報分野の研究基盤となる知識・教養の涵養を目的としている。本スクーリングにおいては、「Ⅰ. 大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」により、①研究及び論文の最低条件を理解する、②研究を進めるための基本的なスキルを身に着ける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という目標の達成を目指す。また、「Ⅱ. 国際情報分野における様々な課題」では、2つのコースに共通する基礎的な課題を学際的に考察して研究基盤となる知識・教養の習得を目指すものとする。

スクーリング概要

（各講義は90分を目安として実施される；講義の最後に小テスト・レポート作成が行われる場合はその時間を含む）

I. 大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項

4月29日（土；祝） 日本大学 通信教育部1号館 31講堂 （三専攻共通）

① 10:30-12:00 「研究及び論文に求められるもの」 （加藤/泉）

（昼食 50分間）

② 12:50-14:20 「主な研究スタイルと論文の構成ー研究目的の決め方と論証・検証の方法ー」 （加藤/島田/泉）

③ 14:30-16:00 「研究倫理1」 （田中）

④ 16:10-17:40 「研究倫理2」 （田中）

⑤ 17:50-19:20 「先行研究のレビューとその利用方法」 （島田）

4月30日（日）午前 日本大学 通信教育部1号館 31講堂 （三専攻共通）

※以下の⑥、⑦は同時双方向講義/グループワークを実施（内容未定）

⑥ 9:00-10:30 「研究及び論文についての概論」 （加藤/島田/泉）

⑦ 10:40-12:10 「研究及び論文の進め方」 （加藤/島田/泉）

（昼食 50分間）

4月30日（日）午後 日本大学 通信教育部1号館 51講堂

II. 国際情報専攻分野における様々な課題

⑧ 13:00-14:30 国際・政治分野（松重充浩）日中比較社会論

⑨ 14:40-16:10 国際・政治分野（日吉秀松）国際関係論

⑩ 16:20-17:50 国際・政治分野（瀧川修吾）日本政治史

5月1日（月） 日本大学 通信教育部1号館 51講堂

⑪ 9:00-10:30 国際・政治分野（神井弘之）地方共生論

⑫ 10:40-12:10 国際・政治分野（大八木時広）国際政治論

（昼食 50分間）

⑬ 13:00-14:30 経営・経済分野（階戸照雄）経営戦略論

⑭ 14:40-16:10 経営・経済分野（雨宮卓史）マーケティング論

⑮ 16:20-17:50 経営・経済分野（加藤孝治）人材マネジメント論

※ 国際情報専攻必修科目「国際情報論特講」の履修者は、必ずスクーリングに参加してください。

講義タイトルについては、当日までに変更されることがあります。

※ 都合が付かない方、及び遠方の方（海外等）については、オンラインでの受講、または講義のVOD配信を検討します。同時双方向講義/グループワークについては、補講を含め、検討します。

令和5年度 スクーリング概要 文化情報専攻

日程：令和5年4月29日(土;祝)～5月1日(月)

場所：東京 市ヶ谷 日本大学 通信教育部1号館

「文化情報論特講」(担当：島田めぐみ)

講義概要：「文化情報論特講」は、文化研究・言語教育研究を志す者に求められる文化リテラシーと、修士論文作成に必要な研究リテラシーの涵養を目的としている。スクーリングでは、まず、領域を超えて研究および論文作成に必要な基礎的事項(研究スタイル、論文の構成、検証方法、文献検索方法、研究倫理)の理解を目指す。次に、各コースの研究領域における研究の特徴を理解し、「文化」と「言語」に関する研究・教育の課題について議論と考察を深める。

スクーリング概要

(各講義は90分を目安として実施される;講義の最後に小テストが行われる場合はその時間を含む)

I. 大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項

4月29日(土;祝) 日本大学 通信教育部1号館 31 講堂 (三専攻共通)

- ① 10:30-12:00「研究及び論文に求められるもの」(加藤/泉)
(昼食 50分間)
- ② 12:50-14:20「主な研究スタイルと論文の構成-研究目的の決め方と論証・検証の方法-」(加藤/島田/泉)
- ③ 14:30-16:00「研究倫理1」(田中)
- ④ 16:10-17:40「研究倫理2」(田中)
- ⑤ 17:50-19:20「先行研究のレビューとその利用方法」(島田)

4月30日(日)午前 日本大学 通信教育部1号館 31 講堂 (三専攻共通)

※以下の⑥、⑦は同時双方向講義/グループワークを実施(内容未定)

- ⑥ 9:00-10:30「研究及び論文についての概論」(加藤/島田/泉)
- ⑦ 10:40-12:10「研究及び論文の進め方」(加藤/島田/泉)
(昼食 50分間)

4月30日(日)午後 日本大学 通信教育部1号館 61 講堂

II. 文化情報専攻分野における様々な課題

- ⑧ 13:00-14:30「英語学論：5文型を事例とした文法学の学際的研究」(川嶋正士)
- ⑨ 14:40-16:10「日本文化論Ⅰ：日本文化はどのように創られてきたのか?」(野口恵子)
- ⑩ 16:20-17:50「第二言語習得論：言語教育学を理論的に説明する方法の一つとして」(田嶋倫雄)

5月1日(月) 日本大学 通信教育部1号館 61 講堂

- ⑪ 9:00-10:30「ヨーロッパ言語圏文化論：世界文学論」(秋草俊一郎)
- ⑫ 10:40-12:10「文化情報論：文化翻訳が拓く異文化間コミュニケーション」(保坂敏子)
(昼食 50分間)
- ⑬ 13:00-14:30「東アジア文化論：中国における「民族」」(清水 享)
- ⑭ 14:40-16:10「日本文化論Ⅱ：村上春樹『若い読者のための短編小説案内』を読む」(山崎真紀子)
- ⑮ 16:20-17:50「日本語教育方法論：言語評価を考える」(島田めぐみ)

※ 文化情報専攻必修科目「文化情報論特講」の履修者は、必ずスクーリングに参加してください。

※ 都合が付かない方、及び遠方の方(海外等)については、オンラインでの受講、または講義のVOD配信を検討します。同時双方向講義/グループワークについては、補講を含め、検討します。

令和5年度 スクーリング概要 人間科学専攻

日程：令和5年4月29日（土；祝）～5月1日（月）

場所：東京 市ヶ谷 日本大学 通信教育部1号館

「人間科学特講」(担当：泉 龍太郎)

講義概要：人間科学専攻の必須科目としての「人間科学特講」は、これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。

スクーリング概要

I. 大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項

4月29日（土；祝） 日本大学 通信教育部1号館 31講堂 （三専攻共通）

- ① 10:30-12:00 「研究及び論文に求められるもの」 (加藤/泉)
(昼食 50分間)
- ② 12:50-14:20 「主な研究スタイルと論文の構成ー研究目的の決め方と論証・検証の方法ー」 (加藤/島田/泉)
- ③ 14:30-16:00 「研究倫理1」 (田中)
- ④ 16:10-17:40 「研究倫理2」 (田中)
- ⑤ 17:50-19:20 「先行研究のレビューとその利用方法」 (島田)

4月30日（日） 日本大学 通信教育部1号館 31講堂 （三専攻共通）

※以下の⑥、⑦はライブ講義（同時双方向講義/グループワーク）を実施予定

- ⑥ 9:00-10:30 「研究及び論文についての概論」 (加藤/島田/泉)
- ⑦ 10:40-12:10 「研究及び論文の進め方」 (加藤/島田/泉)
(昼食 50分間)

II. 人間科学専攻分野における様々な課題 通信教育部1号館 41講堂 (田中)

- ⑧ 13:00-14:30 「人間科学I；調査法の概要と実施の留意点」
- ⑨ 14:40-16:10 「人間科学II；現場で実験を行う」
- ⑩ 16:20-17:50 「人間科学III；修士論文執筆に関する留意点：心理学領域を中心に」

5月1日（月） 日本大学 通信教育部1号館 41講堂

- ⑪ 9:00-10:30 「『教育学』の研究領域と研究方法」 (古賀 徹)
- ⑫ 10:40-12:10 「科学と哲学」 (大熊 圭子)
(昼食 50分間)
- ⑬ 13:00-14:30 「人間科学IV」 (田中) *ライブ講義（同時双方向講義）の予定
- ⑭ 14:40-16:10 「スポーツ医学が救う現代社会」 (秦 光賢)
- ⑮ 16:20-17:50 「健康科学」 (泉 龍太郎)

※ 人間科学専攻必修科目「人間科学特講」の履修者は、必ずスクーリングに参加してください。

※ 講義の時間帯・講義内容は都合により変更になる場合もあります。

※ 2日目の講義終了後に国際情報専攻、文化情報専攻および人間科学専攻と3専攻合同の懇親会を予定しています。

※ 都合が付かない方、及び遠方の方（海外等）については、オンラインでの受講、または講義のVOD配信を検討します。ライブ講義（同時双方向講義/グループワーク）については、補講を含め、検討します。